

2009年4月1日

中央区平和祈念バーチャルミュージアム 「平和祈念アニメーション(平和絵本)」制作について

約1か年間の制作日数をかけて完成した東京都中央区の企画による平和祈念アニメーションです。弊社がアニメーションの制作を担当させて頂きました。
綿密な歴史考証に基づいて、家族の絆が断ち切られてしまう戦争の惨状と、平和への願いを込めて、第一線で活躍するスタッフが描きました。是非、ご覧ください。



中央区平和祈念バーチャルミュージアム
Webサイト:

<http://www.city.chuo.lg.jp/heiwaka/kids/ehon/index.html>

《概要》

名称: 中央区平和祈念バーチャルミュージアム
「平和祈念アニメーション(平和絵本)」3作品制作

タイトル: ①「お父さんは写真屋さん」②「赤ちゃんと防空壕」③「次郎の疎開」

仕様: ・Web版
・DVD版(上映会用)

完成: 2009年4月1日

企画: 東京都中央区

制作: エクスプローラーズ・ジャパン(株)

シナリオ: 水原 央

原画: 水野 ぷりん

アニメーション: 柴山知久

ナレーション: 飯島 晶子

歴史監修: 増山 一成(中央区主任文化財調査指導員)

監修: 内田 伸子(お茶の水女子大学副学長)

《本作品に関するお問い合わせ》

エクスプローラーズ・ジャパン(株)
〒150-0032東京都渋谷区鶯谷町3-1 SUビル302号
TEL:03-5458-2460 FAX:03-5458-2440
CONTACT: info@expj.co.jp
担当: 浅野/豊川

中央区平和祈念バーチャルミュージアムで見ることができる平和祈念アニメーション(平和絵本)は、下記の3コンテンツで構成されています。

■空襲体験



時間:6分55秒

■学童疎開



時間:6分54秒

■戦時下の市民生活



時間:6分40秒

日常の暮らしを営む中央区の人々の視点から見た戦争の惨状を、過剰な演出やドラマを廃して描きました。風化してしまう戦争の記憶と平和への願いを込めて、一人でも多くの方々に見ていただきたいと思っています。

《中央区バーチャルミュージアムとは》

中央区は、世界の恒久平和を願い昭和63年3月15日に「平和都市宣言」を行い、平和の尊さを訴える取り組みを進めています。しかし、戦後60年以上を経て戦争体験世代が減少し、戦争を知らない世代に戦争の悲惨さ、平和の大切さを語り継ぐことが難しくなっています。

そのため、平和都市宣言20周年を記念して、多くの方々に日頃から平和について考えるきっかけの場を今まで以上に提供するため、中央区における戦争の記録や戦災資料をいつでも見ることのできるホームページ「平和祈念バーチャルミュージアム」を開設しました。

《監修者からのコメント》

内田 伸子(お茶の水女子大学副学長)

今から64年前、第二次世界大戦は街を破壊し、そこで暮らすふつうの人々の暮らしを壊滅させた。赤ん坊から老年期の人々に至るまでの命を情け容赦なく奪い、親子の絆を断ち切り、地域の人々の絆を断ち切った。この壊滅的な状況の中にあってもなお、人々は希望を失わず、立ち上がり、二度と戦争を起こしてはならないと誓いながら、戦後の復興に力尽くした。老年期を迎えた人々の信じられぬほどのがんばりのおかげで、今や、豊かで平和な暮らしがあたりまえになった。私たちは戦争があったことを忘れ、平和の尊さを忘れて暮らしている。戦争を二度と許してはならないと誓ったはずなのに、世界中で戦争は絶えることなく続いている。戦争の一番の犠牲者は子どもたち、母親たち、そして、ごくふつうの市民である。世界では今なお戦渦に苦しむ大勢の子どもたち、母親たち、そして市民たちがいる。戦争の記憶や平和の尊さを次世代に伝えたい。この平和祈念アニメが一人でも多くの子どもたちの心に届きますように。

増山 一成(中央区主任文化財調査指導員)

東京への空襲は、昭和17年4月から昭和20年8月の終戦までに100回以上にもおよびました。なかでも、昭和20年3月10日未明の東京大空襲は、B29爆撃機が落とした焼夷弾により、わずか2時間半の間に10万人の尊い生命を奪いました。

こうした空襲体験が、戦後64年の歳月とともに風化しつつある中、中央区では“戦争の記憶と平和の尊さ”を伝える3つの短編アニメーションを作りました。銀座が舞台の『お父さんは写真屋さん』、月島が舞台の『赤ちゃんと防空壕』、埼玉県の大宮が舞台の『次郎の疎開』。どの作品も、戦災体験者の方々の貴重な体験談を収めた「戦災体験記」の実話を題材にしています。

子どもの頃に感じた空襲の恐怖や被災後の悲しみ、戦禍の中を必死に避難する人々の姿や爆撃後の惨状、疎開先での生活や不安、そして家族との絆……。実体験にもとづかなければ表現することのできない繊細な感情をも見事に描き出し、見る人の胸を打ちます。

過剰な演出を排した正確な描写の一つ一つに、当時のリアルな状況が見てとれ、平和の尊さを次世代に伝えていく価値あるアニメーションといえます。

参考画コンテ

中央区平和祈念バーチャルミュージアム アニメーション

①空襲による被災者の状況「お父さんは写真屋さん」(仮)

Scan No. 5

	<p>□地上 鍛冶橋・写真館前 路上で父と空を見上げている。 ヒュー、ヒューという無数の弾頭の落下音がしはじめる。 僕「父さん」</p> <p><i>雨のような機体だしもうもうとくたけはし</i></p>
<p>2</p>	<p>近づくエンジン音とともに、上空を埋め尽くす B29 の編隊が見え始める。 すぐに機体の腹が赤い光を反射し始める。</p> <p><i>やみくもに炎</i></p> <p>父「……燃えだしたつ」</p>
<p>3</p>	<p>父「町の方に目を向ける」 父「……燃えだしたつ」</p> <p>その方面の街が、赤く燃え上がる。 そこから、はじめはばらばらと、次第にたくさんの影が押し寄せてくる。 黒くうごめく影の波は次第に大きくなり、それがひとりひとり人間の形を帯びてくる。</p> <p><i>逃げつづける人の波。7:30:12:12 up</i></p>
<p>4</p>	<p>人の群れの背後から、火の粉が追ってくる。 ある中年男性の背負った荷物に火が移る。 男性は振り払おうともがく。 もがいたことで飛び火して次々と周囲の人の荷物に類焼する。 人の波は、絶叫とともに火の河となる。</p>
<p>5</p>	<p>火の河のあかりに照らされて呆然とする僕の顔。</p>